

第71回国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生の主張コンクール東京都大会 金賞

東京都立小山台高等学校 2年

中田 湊零

課題①

これから生まれてくる未来世代にとってあるべき世界の姿とはどんなものと考えるか。

そのために私たちが優先して取り組むべき課題とは何か。

副題

宗教から学ぶリスペクト

皆さんは「宗教」と聞いて、何を思い浮かべますか？多くの人がネガティブなイメージを持っています。実際に、「宗教」と検索すると検索上位に「怖い」と出てきます。単一民族国家と呼ばれる日本では、宗教のトピックから目を背ける人が多いです。

しかし、今ではグローバル化が進み、「多様性」をととても身近に感じ始めています。それでも、宗教を身近に感じている人は少ないです。私たちは、宗教の捉え方について考え直さなければなりません。日本だけでも約十八万以上の宗教があると推定されています。世界にも、代表的なものでいえばキリスト教や仏教などがありますが、どれが良くて悪いかは判断することはできません。それは個人の捉え方によっては素晴らしいものになり、時には恐ろしいものとなりえるからです。

今年の六月まで約一年間、私は次世代リーダー育成道場という東京都のプログラムを通してアメリカ合衆国に留学しました。カトリックの私立学校に通うことになった私は、宗教は洗脳のための悪い詐欺であるからなるべく触れないようにしよう、という偏見と共に渡米しました。そんな中、私はある陽気で周りを笑顔にする人物と出会いました。彼は若い頃に悪行を行い刑務所にいましたが、獄中で神様と出会ってから人生観が変わり、人と今を生きる喜びと感謝の気持ちを常に忘れなくなったといいます。そして彼は牧師となり、日々人と喜び、人を喜ばせています。宗教を明るく捉えたことのなかった私は、人の心を救う信仰の価値観に初めて触れ、感銘を受けました。

ところが、それとは裏腹に宗教は恐ろしいものであるともいえます。

ある日、現地の学校の友達と家で雑談をしていた時にカトリックの話題になりました。とても真剣な眼差しで、彼女の親切心から信じている神様がどれほど素晴らしい存在なのかを語ってくれました。しかし、だんだんと話を聞くうちにその時までの十七年間、その神様を信仰してこなかった私自身が否定され、惨めなようにも思えてきたのです。「私の信じる神様が一番」という考えが強くなればなるほど他者の信仰心を受け入れなくなります。その排他的思考から存在しない優越が心の中で芽生え、差別に繋がるのだと学びました。

これからさらにグローバル化が進み、エスエヌエスなどを通して世界との距離が近くなる将来、大切なのは自分の信じることに誇りを持ち、相手の信仰心を受け入れ尊重することです。

日本でも、宗教の授業ではなく、「宗教について話す時間」を作れたら良いと考えます。具体的には、クラス内で世界三大宗教を初めとした宗派に何名かで別れ、それぞれの立場から決まりごとや禁止事項を頭にいった上で意見を出し合うのです。

学校でこうしたアクティブな時間を取り入れることは偏見と差別のない新たな視点を生み出すことに繋がると考えます。

また、私は都を拠点とした学生団体で「高校生 SDGs 会議」を運営しています。そこでは様々なバックグラウンドを持つ初対面の高校生たちが一同に集い、SDGs達成に向けディスカッションを行っています。私はこの活動を通して異なる考えを持つ人々を否定的に捉えずに、尊重できるキッカケをつくりたいと考えています。

これから生まれてくる未来世代にとって、宗教をはじめとした他者の信仰や意見に対する「偏見」と「差別」のない世界があるべき姿です。そのために、まずは他者の信じることを尊重してみましょう。相手をリスペクトする優しさは、連鎖する、と強く信じています。

ご清聴ありがとうございました。